

第 2 回 九重町立小学校のあり方検討委員会 会議録

日 時	令和 7 年 10 月 23 日(木) 18:30~20:00
場 所	九重町役場 3 階 301 会議室
出席者	委員 16 名、教育長、事務局 6 名
欠席者	委員 3 名

内 容	
1	開 会
2	委員長あいさつ
3	経過報告
	<議事>
4	内容検討 (前回会議終了後に事務局に寄せられた意見・質問)
	①野矢小学校の「親子山村留学制度」について詳しく内容を知りたい。
	②「魅力ある学校の姿」を説明していた 3 点とするなら、小規模校のほうが活動しやすいし、地域とのつながりもつくりやすい。一方、「地域の特色」を生かすときに、何がその地域の特色なのか、保護者や地域住民が分かっていないと地域とつながらないのでは。
	■親子山村留学制度について説明 (説明者：佐藤義明(野矢校区活性化推進協議会山村留学部会代表))
	1.野矢校区活性化協議会とは
	2.親子山村留学の取り組みについて
	3.親子山村留学の成果と課題
	■「校区の特色を生かした地域協働の取り組み」(案)の作成 各学校区に分かれてグループワーク(20分)
5	その他 ■次回委員会について
6	閉 会
質疑・応答及び意見	
	質問：親子山村留学部会があると説明で言っていたが、部会の年齢層はどうなっているか。
	回答：一番上の年齢は 75 歳(児童の祖父)、次に私(佐藤)が 66 歳。若い人でいうと 45 歳。40 代~70 代で年齢層の偏りはない。ただ、だんだん年齢構成が上がっていくので組織の新陳代謝をどう行っていくかが課題となっている。組織の継続のためには、世代交代も考えないといけない。

質問：野矢地区の他の方の意見が聞きたい。

回答：野矢校区の若者が減っている、私が帰ってきてから 10 年、その間で帰ってきたのは 1 名だけ。そんな中で学校を維持していくためには山村留学しかないかもしれない。親世代より下の世代はほとんどいない。私たちがどう働きかけていけるか。野矢地域に山村留学で来た方が定住してくれたら。むずかしいとは思う、継続的にやっていけたらいい。

回答：一番重要なことは地域子どもたちに思い出を作っただけのこと。子どもたちに「野矢地域は温かく迎えてくれる」と思えるような体制づくりが必要。

質問：山村留学を体験した方の定住をのぞむとあったが、具体的に期間は定めているか？

回答：限定していない。今、山村留学で来ている家庭については鹿児島で卒業させたいという気持ちがあると親御さんから聞いている。そうすると野矢小学校にいるのもあと 2~3 年かと思う。教育委員会からも制限はないと聞いている。ただ、山村留学は小学生の間なので、長くても 6 年しかない。その中で思い出づくりをしていかなければならない。

質問：由布市湯布院町の川西小学校が小規模特認校になっている。挾間町にも小規模特認校が 2 校できている。小規模特認校が増えているのはなぜか。どんな状況なのか。

回答：都市近郊部では人口が一極集中している影響があり、周りに受け入れるための小規模特認校ができていると考える。

次回開催予定日

12 月 8 日の週で検討し通知する。時間帯については今まで通り 18:30 からの実施。